

一般公開ワークショップ

「高校・大学・産学連携の英語のスピーキング教育」

「学校教育における日本語教育と  
多文化共生」

東京外国語大学  
名誉教授 小林 幸江  
2019/8/16 於 TUFS

# ◆ はじめに

## ◇ 本日のお話

1. 学校で学ぶ外国ルーツの子ども
2. 外国ルーツの子どもの日本語教育
3. 学校教育における多文化共生に向けて

## ◇ 用語

- ・ 外国ルーツの子ども（以下、「子ども」）
- ・ JSL : 第2言語としての日本語 Japanese as a Second Language
- ・ DLA : JSL対話型アセスメント Dialogic Language Assessment for Japanese as a Second Language

## ◇ 自己紹介

- ・ 東京外国語大学 (1977~2017)
- ・ 専門: 日本語教育(留学生・年少者) 科研(基盤C) (2016~2020) 研究分担者  
「JSL対話型アセスメントDLAの精緻化と外国人児童生徒のための教育的枠組みの構築」
- ・ 主な著書(年少者向け): 2007『マリアとケンのいっしょににほんご-『学び』につながる16の活動-』(共著) スリーエーネットワーク、2006-2008『ブラジル人児童のための漢字教材 Meu Amigo Kanji 80』『同 160』『同 200』『Material de Kanji brasileiros residentes no Japao Meu Amigo Kanji I』『同 II』『同 III』(編集) 東京外国語大学多言語多文化教育研究センター、2014「外国人児童生徒の学習支援のためのDLAアセスメント」(文科省委託研究2010-2012)(共著) 文科省、2018『DLA<聴く>聴解用映像』、2019「外国にルーツをもつ子どもの日本語教育の現状と課題」『ことばと文字』、2019年春号 11 公益財団法人日本のローマ字社 くろしお出版

# 1. 学校で学ぶ外国ルーツの子ども

文科省 「日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況等の調査」  
(H28)結果より 文科省 (2014年度前回調査)

H3から実施

## (1) 概要

・全国の公立学校に**在籍**する外国人児童生徒数

80,119(73,289)人

・**日本語指導が必要**な児童生徒数

外国籍 34,335(29,198)人

日本国籍 9,612(7,897)人

・**日本語指導を受けている**児童生徒の割合

外国籍 76.9%(82.9%)

日本国籍 74.3%(78.3%)



※日本語ができない児童生徒とは、  
「日本語で日常会話が十分にできない児童生徒」及び「日常会話ができて、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じており、日本語指導が必要な児童生徒」 (文科省 H28)

日本語指導が必要なのに

指導を受けていない「子ども」がいる！

## (2) 全学校10,631(外国籍7,020、日本国籍3,611)校からの回答

### ・日本語指導の必要の有無の判断の基準は...

- 「学校生活や学習の様子から判断」 8,064校
- 「来日してからの期間を基準に」 2,982校
- 「DLA等の日本語能力測定方法で判定」 1,751校

### ・学校での指導内容は...

- 「日本語基礎(文字・表記・語彙・文法、学校への適応や教科学習に参加するための基礎的な力)」 6,370校
- 「教科の補習」 5,526校
- 「サバイバル日本語(挨拶、体調を伝える言葉、教科名、身の回りの物の名前など)」 4,249校

### ・日本語指導を受けられない理由は...

- 「日本語指導を行う指導者がいない(不足を含む)」 2,491校
- 「在籍学級での指導で対応できると判断するため」 1,907校

### ・「特別の教育課程」による日本語指導を実施していない理由は...

- 「指導を行う教員がいないため」 3,830校
- 「教育課程の編成が困難であるため」 2,683校

実施は半数以下

人手不足

予算不十分

体制整備の遅れ

「子ども」の日本語教育  
についての無理解

### (3) その他

- 母語別

外国籍 : **ポルトガル語**25.6%、中国語、23.9%、タガログ語18.3%、  
スペイン語 10.5%、ベトナム語、英語、韓国・朝鮮語、その他  
日本国籍: **フィリピン語**31.6%、中国語21.5%、日本語12.7%、英語10.9%、  
ポルトガル語、スペイン語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、その他

- 在籍人数別学校数

外国籍 : **1人在籍校** 2,851校(全体 7,020 校に占める割合) **40.6%**、  
5人未満 75.4%、5人以上 24.6%  
日本国籍: **1人在籍校** 1,937校(全体 3,611 校に占める割合) **53.6%**  
5人未満 86.2%、5人以上 13.8%

 **少数散在が多い。**

指導の手薄

放置

## 2. 外国ルーツの子どもの日本語教育

### 2-1 「子ども」の背景 (文科省 H28)

外国籍 / 日本国籍(国際結婚、重国籍、帰国児童生徒...)

新来日 / **日本生まれ・幼少時来日の「子ども」急増**

外国人のこども？

「国際人権規約」(1996 国連採択、1979 日本批准)

「児童の権利に関する条約」(1989 国連採択、1994 日本批准)

母語？

「子ども」の日本語能力に影響を与える**四大要因** (中島 2014)

- ① **母語** アイデンティティ、親子の絆維持  
「L1(一番強い言語)により得られた認知力はL2に転移する。」
- ② **年齢** 言語形成期(9-10歳)の前期、後期か
- ③ **入国年齢** 学年相当の「教科学習言語能力」習得には長い時間がかかる
- ④ **滞日年数** 日本語との接触量(会話の流暢度、文字の習得)

👉 「子ども」は多様な背景を持つ。

どのように持っている力を把握し、学年相当の日本語力をつけるか？

## 2-2 「特別の教育課程」

2014年4月1日：日本語指導を必要とする子どもの増加に伴い、「学校教育法施行規則」の一部改正に伴い、「**特別の教育課程**」が制度化された。

- ・指導内容：初期の日本語指導 + **ALP**（教科学習言語能力）育成
- ・指導者に求められること

児童生徒の**実態の把握** 指導計画の作成・見直し  
**日本語指導及び学習評価** 学び及び自立学習の促進

文科省「CLARINETへようこそ」[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm)



2014年：「**外国人児童生徒のための対話型アセスメント DLA\***」開発

\* Dialogic Language Assessment for Japanese as a Second Language  
(2010～2012 東京外大の文科省委託研究)

「特別の教育課程」（実施は調査対象校の半数以下）、

「DLA」（外国籍 42.6%、日本国籍 38.8%）

☞ **まだじゅうぶん浸透していない**（文科省 H28）

## 2-3 「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」

### (1) DLAの概要

#### ・目的

- ① 「子ども」のALP(教科学習言語能力)を把握し、在籍学級での学習参加の可能性を探る。
- ② 必要な学習支援を探り、指導計画を立てる。

・対象 日本語での日常会話はできるが、教科学習に困難を抱えている「子ども」（高校生は対象ではない）

・方法 一番早くのびる会話力を使い、1対1の対話を通し、スクヤホールディングを行うことにより、教科学習言語能力を測り伸ばす。

・特徴 DLAをすることが、年少者にとって「学びの機会」になる。  
DLAの取組みを「認め」、「待ち」、「ほめる」ことにより、「子ども」の学習意欲・興味・関心を高める。



## (2) DLAを支える理論

### ①「子どもの言語能力の3側面」

(Cummins著、中島訳 2006)

- ・ 会話の流暢度 (CF) : 1-2年
- ・ 弁別的言語スキル (DLS) : 学年、スキルの内容により異なるが、2年
- ・ **教科学習言語能力 (ALP) : 5年以上**

### ②「マルチリンガル環境におけるリテラシーの獲得」

(Cummins著、中島訳 2011)

二言語でのリテラシーの育成(読み・書き)が必要不可欠

### ③「ダイナミックアセスメント」

「発達の最近接領域(ZPD)」の理論に基づく (ヴィゴツキー, 柴田訳, 1962)

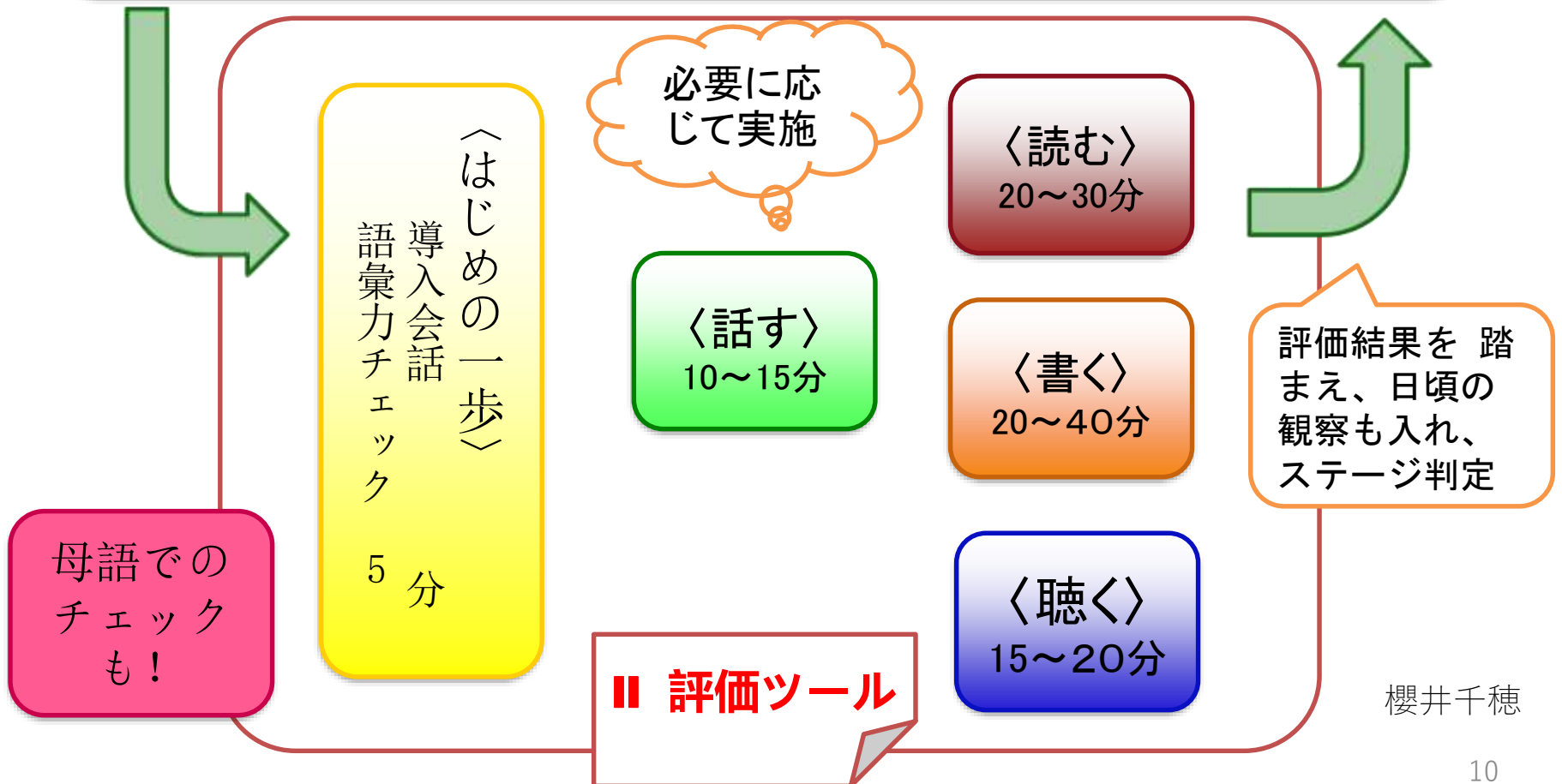
「子どもの能力を現在の発達水準で評価するのではなく、教師の教育的介入により、子どもの将来の学習の可能性を見ることができる。」

# (3) DLAの構造

日頃の観察から  
ステージ予想

## I 「JSL評価参照枠」

日本語のレベルを6つのステージであらわす  
在籍学級参加との関係で支援の段階を示す



櫻井千穂

## (4) 「JSL評価参照枠」

### 1) 種類

#### ① 「JSL評価参照枠」〈全体〉

👉 必要な支援の段階

- ・ 「在籍学級参加との関係」と「支援の段階」を**6つのステージ**で示している。

#### ② 「JSL評価参照枠」〈技能別〉

👉 必要な支援の項目・内容

- ・ 「話す」「読む」「書く」「聴く」の日本語技能を各観点別\*に、6つのステージで示している。

例:

\*「話す」: 語彙、話す態度、話のまとめ、段落の質、文法的正確度、発音・流暢度

\*「読む」: 語彙・漢字、読解行動、読書習慣・興味・態度、読解力、音読行動 (以下、略)

# ①「JSL評価参照枠<全体>」

ステージ	学齢期の子どもとの在籍学級参加との関係	支援の段階
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	支援付き自律学習段階
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	個別学習支援段階
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	
2	支援を得、学校生活に必要な日本の習得が進む	初期支援段階
1	学校生活に必要な日本語の習得がはじまる	

特別の教育課程の期間

S1、2は滞在期間3年未満に集中  
(櫻井 2013)

長期滞在・日本生まれでも、  
S3、4にとどまる「子ども」が多い(櫻井 2013)

年齢相当の教科学習についていけるには5年以上かかる  
(中島 2010) 小林

話す

# ② JSL評価参照枠 <技能別>

読む

ステージ	話の内容・まもり	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢度	話す態度
6	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科内容と関連した認知タスクがこなせる	<input type="checkbox"/> まとまった話が1人できる	<input type="checkbox"/> 文法的正確度が高い	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科学習語彙が使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が大変高い	<input type="checkbox"/> 自分から進んで発音し、会話を自らリードできる
5	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科内容と関連した認知タスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> ある程度まとまった話ができる	<input type="checkbox"/> 文法的正確度がある程度高い	<input type="checkbox"/> 教科学習語彙がある程度使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が高い	<input type="checkbox"/> 様々な会話に積極的に参加することができる
4	<input type="checkbox"/> 対話タスクがこなせる	<input type="checkbox"/> 文を生成し、ある程度連文ができる	<input type="checkbox"/> 連文レベルで誤用がほとんど目立たない	<input type="checkbox"/> 日常語彙が使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度がある	<input type="checkbox"/> 聞かれた質問に答えることができる
3	<input type="checkbox"/> 対話タスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> 単文レベルの応答ができる	<input type="checkbox"/> 単文は生成できるが、助詞や活用などの誤用が目立つ	<input type="checkbox"/> 身近な日常語彙が使える	<input type="checkbox"/> 発音が高い	<input type="checkbox"/> 聞かれた質問にある程度答えることができる
2	<input type="checkbox"/> 基礎タスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> 二語文	<input type="checkbox"/> 語順が乱れ、活用が不正確	<input type="checkbox"/> 基礎語彙が使える	<input type="checkbox"/> 発音なし	<input type="checkbox"/> 定型表現や知っている単語でコミュニケーションをとろうとする
1	<input type="checkbox"/> 基礎タスクの質問にいくつか答えられる	<input type="checkbox"/> 一語文	<input type="checkbox"/> 単語レベル	<input type="checkbox"/> わずかな基礎語彙が使える	<input type="checkbox"/> 発音なし	<input type="checkbox"/> ジェスチャーや表情でコミュニケーションをとろうとする

書く

	内容	構成	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール	書く態度
6	<input type="checkbox"/> 内容に見合った長さの作文が書ける <input type="checkbox"/> 内容が豊か <input type="checkbox"/> 年齢相応の表現技術が使える	<input type="checkbox"/> まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 効果的な段落が作れる	<input type="checkbox"/> 複雑な文が書ける <input type="checkbox"/> 正しい文が書ける <input type="checkbox"/> 文末の統一ができる	<input type="checkbox"/> テーマに見合った適切な語彙を使って書ける <input type="checkbox"/> 年齢相応のさまざまな語彙や漢字が使える	<input type="checkbox"/> 表記上、正確度の高い文章が書ける	<input type="checkbox"/> 書くことに意欲的に取り組む <input type="checkbox"/> 書く前に準備をする <input type="checkbox"/> 書いた後読み返して修正しようとする
5	<input type="checkbox"/> 内容がある程度豊か <input type="checkbox"/> 表現上の工夫がある	<input type="checkbox"/> ある程度まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 段落が作れる	<input type="checkbox"/> 複雑な文もある程度書ける <input type="checkbox"/> 大体正確な文が書ける <input type="checkbox"/> ある程度文末の統一がとれる	<input type="checkbox"/> テーマに見合った語彙がある程度使える <input type="checkbox"/> 年齢相応に近い語彙や漢字が使える	<input type="checkbox"/> 表記上、誤用が少ない文章が書ける	<input type="checkbox"/> 課題作文に積極的に取り組む <input type="checkbox"/> 書く前の準備がある程度する <input type="checkbox"/> 書いた後読み返しをする
4	<input type="checkbox"/> テーマに添った作文が書ける	<input type="checkbox"/> 文と文をつなげて、流れのある作文が書ける	<input type="checkbox"/> 誤用はあるが意味の通じる文が書ける	<input type="checkbox"/> 日常語彙を使って作文が書ける <input type="checkbox"/> 少し下の年齢枠の語彙や漢字が使える	<input type="checkbox"/> 表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける	<input type="checkbox"/> 課題作文に自分で取り組む
3	<input type="checkbox"/> テーマと関連がある文がいくつか書ける	<input type="checkbox"/> テーマと関連がある複数の文が書ける	<input type="checkbox"/> 誤用が多いが、連文が書ける	<input type="checkbox"/> 日常語彙がある程度使って文が書ける <input type="checkbox"/> 少し下の年齢枠の語彙や漢字がある程度使える	<input type="checkbox"/> 文字・表記上の誤用が多い	<input type="checkbox"/> 支援を得て課題作文に取り組む
2	<input type="checkbox"/> 使い慣れた表現を使って書こうとする	<input type="checkbox"/> 文を書こうとする	<input type="checkbox"/> ひらがなとカタカナを使い分けて文を書こうとする	<input type="checkbox"/> 既習語彙や漢字を使って文を書こうとする	<input type="checkbox"/> 表記ルールがある程度理解して文を書こうとする	<input type="checkbox"/> 支援者といっしょに考え、支援を受けながら書くことに取り組もうとする
1	<input type="checkbox"/> テーマに関連する単語が書ける	<input type="checkbox"/> いくつかの関連する単語を並べることができる	<input type="checkbox"/> ひらがなが書ける	<input type="checkbox"/> よく知っている単語が書ける	<input type="checkbox"/> 表記ルールについての理解が始まる	<input type="checkbox"/> 作文を書く指導を受け始める

ステージ	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度
6	<input type="checkbox"/> 年齢相応の読み物を読んでよく理解できる	<input type="checkbox"/> より深く理解するために必要な様々な読解方略(予測・推測・関連づけ、読み返し等)を効果的に使うことができる	<input type="checkbox"/> 文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める	<input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がよく理解できる	<input type="checkbox"/> 年齢相応の本や読み物を進んでたくさん読む習慣がある
5	<input type="checkbox"/> 年齢相応の読み物を読んで、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 理解するために必要な読解方略がある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って読める	<input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 年齢相応の本や読み物がある程度読む習慣がある
4	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の読み物を読んで、大まかに理解できる。	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読解方略がある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> 安定して、文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の本や読み物を読む習慣がある
3	<input type="checkbox"/> 2つ(または3つ)下の年齢枠の読み物を読んでも、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読解方略を使い始める	<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるが、だいたい文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ(または3つ)下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ(または3つ)下の年齢枠の本や読み物を読む
2	<input type="checkbox"/> 音読よく目にする身の回りの簡単な単語が理解できる	<input type="checkbox"/> 文字の読み間違いに気づく	<input type="checkbox"/> 文字習得が進む	<input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、興味のある読み物や身の回りの書かれたものを読もうとする
1	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 文字と音との対応ができる	<input type="checkbox"/> 文字習得はじまる	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> ごく短い読み物や書かれたものに興味を示す

聴く

\*年齢枠と読み物のレベルとの関係は、本章5節の【テキストの対象年齢】を参照して

ステージ	聴解力	聴解行動	語彙・表現
6	<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れがよく理解できる	<input type="checkbox"/> 教師の話の内容に関心を持ち集中して最後まで聴け、授業に積極的に参加できる	<input type="checkbox"/> 授業のテーマに関連した語彙・表現がよく理解できる
5	<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れがある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 教師の話の内容に関心を持ち集中して最後まで聴け、授業にある程度参加できる	<input type="checkbox"/> 授業のテーマに関連した語彙・表現がある程度理解できる
4	<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れが部分的に理解できる <input type="checkbox"/> 身近な内容の話をしていて大体理解できる	<input type="checkbox"/> 教師の話の内容に関心を持ち集中して最後まで聴け、授業に部分的に参加できる <input type="checkbox"/> 身近な内容の話をして、最後まで聴ける	<input type="checkbox"/> 授業のテーマに関連した語彙・表現が部分的に理解できる <input type="checkbox"/> 身近な内容の語彙・表現が大体理解できる
3	<input type="checkbox"/> ごく短い身近な内容の話をして、支援を得て理解できる	<input type="checkbox"/> ごく短い日常的な内容の話を、支援を得て最後まで聴こうとする	<input type="checkbox"/> 身近な内容の語彙・表現が支援を得てある程度理解できる
2	評価対象外		
1	評価対象外		

## (5) DLAの意義

- 1 全国的に利用可能な汎用的な測定法である。
- 2 行政、教育の現場、保護者間で、具体的な日本語能力のイメージを共有することができる。
- 3 対話を通して、年少者の言語能力を包括的、多角的に診断できる。その結果から指導のヒントを得る等、指導につなげられる。

# 参考 DLA研究について

- ・第1期 文科省委託研究(1996～1998) 外国人児童生徒の日本語指導ガイドライン
- ・第2期 文科省委託研究(2010～2-13) DLA開発  
(伊東祐郎、小林幸江、菅長理恵、櫻井千穂 / 中島和子)
- ・第1期 DLA科研(2013～2015) (基盤C 代表:小林幸江) DLAの精度の検証

「日本語指導の必要の有無の**判断の基準**は...」(文科省 2018)

「学校生活や学習の様子から判断」 8,064校

「来日してからの期間を基準に」 2,982校

「DLA等の日本語能力測定方法で判定」 **1,751校**

- ・第2期 DLA科研(2016～2020) (基盤B 代表:伊東祐郎)

## 1 「JSL評価参照枠」の精緻化

現在のものは、大枠のみ示されている。年齢枠別の記述をめざす。

## 2 DLAの評価に基づく教育的枠組みの構築

☞ DLAの評価の結果を教育に取り組むことを目指す。

### 3. 学校教育における多文化共生に向けて

#### 3-1 学校の多文化の実態

##### ・「子ども」の母語別調査(文科省 H28)

外国籍 : **ポルトガル語**、中国語、タガログ語、スペイン語、  
ベトナム語、英語、韓国・朝鮮語、**その他**

日本国籍 : **フィリピン語**、中国語、日本語、英語、ポルトガル語、  
スペイン語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、**その他**

**その他** : インドネシア語、ウルドゥー語、タイ語、ネパール語、  
ベンガル語、モンゴル語、ロシア語、アラビア語、  
ペルシャ語、マレー語等 (櫻井 2018)

##### ・「子ども」の在籍校がある都道府県(文科省 H28)

外国籍 : 愛知、神奈川、**東京**、静岡、大阪、三重県

日本国籍 : 愛知、神奈川、**東京**、大阪、埼玉、千葉

- ・**学校の取り組み** : 多言語環境の見える化、  
国際理解教室、国際交流イベント(保護者を含む)、運動会の  
多言語放送...



## 3-2 学校教育の現状(1)

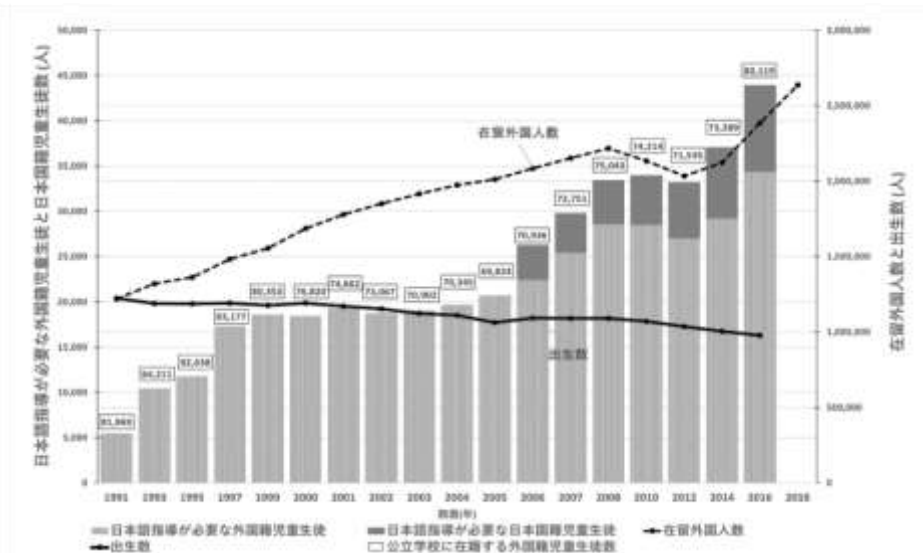
### ・国の教育方針

「日本国憲法」第26条「すべて**国民**は…」

「教育基本法」第1章「教育の目的及び理念」 第1条(教育の目的)  
教育は、**人格の完成をめざし**、平和的な国家及び社会の形成者として、**真理と正義を愛し**、個人の価値をたつとび、**勤労と責任を重んじ**、**自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成**を期して行われなければならない。

👉 「**同化**」が優先されている。

### ・「子ども」の増加 (小林 2019)



図「日本語指導が必要な児童生徒数及び国内の出生数と在留外国人数」

出典:文部科学省初等中等教育局国際教育課「外国人児童生徒等に対する教育支援に関する基礎資料」(参考資料)(H16) 文部科学省初等中等教育局国際教育課「外国人児童生徒教育の現状と取り組み」(H16年度)

法務省(2005)「平成17年末現在における外国人登録者統計について」在留資格別外国人登録者数の推移

## 3-2 学校教育の現状(2)

指導体制の未整備

教育の現場では、

### ・ 日本語指導は、短期間の基本的な日本語指導で修了



「取り出し授業で日本語指導を受けてきたのに、日本語が全然入ってない。担任としてどう対応したらよいかわからない。」

### ・ 教科学習は、個々の指導者、「子ども」の意欲・努力に任せられている。

放置



「日本語指導は日本語の先生に任せている。私は他の子どもで手いっぱい。」  
「意欲がない子は何をどうやっても伸びませんね」

### ・ 「子ども」の日本語教育について無理解



「お友だちとは遊べるのに、授業についていけない」  
「教えてもすぐ忘れる」「なかなか覚えられない」「宿題をいつもやってこない」  
「○国人で固まっていて、○語でばかり話している。早く日本語を覚えるために、校内の言葉は日本語だけにしてはどうか」

### 3-3 学校の多文化共生に向けてー日本語教育の視点からー

#### 学校の多文化共生は、日本の多文化共生社会を推進する力・要

- ・「子ども」は、将来の日本社会を支える市民になる人たち
- ・「子ども」が学校の中で学べる環境を整えることが、学校における真の多文化共生の環境は不可欠

#### 1. 「子ども」が十分な日本語教育を受けられないのは、人権問題

「子ども」が将来、自己実現ができる日本語力を伸ばす。

就学前～高校での日本語教育を考える。

「日本語教育の必要な生徒 高校の中退率9%超 公立校平均の7倍」

(朝日新聞 2018/9/30)

#### 2. 「同化」から「子ども」の多様な背景を認める教育へのパラダイムシフトが必要

例:「子ども」の「母語」(継承語)の捉え方

- ・「〈子ども〉の母語は、**認知力の強化にプラス**」(中島 2019)
- ・「**権利としての母語保障**」(真嶋 2009)

『母語をなくさない日本語教育は可能か』(真嶋 2019)

- ・『マルチリンガル教育への招待ー**言語資源としての日本人・外国人年少者**』  
(中島 2010)

# 参考資料・文献

- ・ 文科省 「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成 28 年度)」の結果について [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/29/06/\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1386753.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/06/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1386753.pdf) (2019/7/30 確認)
- ・ 文科省初等中等教育国際教育課 (2013) 『◆外国人児童生徒の総合的学習支援事業外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLA』  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2014/03/20/1345383\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2014/03/20/1345383_1.pdf) (2019/7/30 確認)
- ・ 東京外国語大学「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLA 使い方映像マニュアル」 <http://www.tufts.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/news/jsl-dla.html> (2019/7/30 確認)
- ・ 小野博(1994) 『バイリンガルの科学』 講談社BOOK倶楽部
- ・ 中島和子(2010) 編著 『マルチリンガル教育への招待—言語資源としての日本人・外国人年少者』 ひつじ書房
- ・ ジム・カミンズ(著)・中島和子(訳著)(2011) 『言語マイノリティを支える教育』 慶応大学出版会
- ・ バトラー後藤(2011) 『学習言語とは何か 教科学習に必要な言語能力』三省堂
- ・ 櫻井千穂(2018) 『外国にルーツをもつ子どものバイリンガル読書力の発達』 大阪大学出版会
- ・ 真嶋潤子(2009) 「外国人児童生徒への母語支援の重要性について-兵庫県母語支援事業に関わって-」 『平成20年度新渡日の外国人児童生徒に関わる母語支援事業実践報告書』
- ・ 真嶋潤子(2019) 『母語をなくさない日本語教育は可能か—一定住に世代の二言語能力』 大阪大学出版会
- ・ 小林幸江(2019) 「外国にルーツをもつ子どもの日本語教育の現状と課題」 「ことばと文字」2019年春号 11 公益財団法人 日本のローマ字社 くろしお出版
- ・ 中島和子(2019) 「2019年度 バイリンガル・マルチリンガル(BM)子どもネット研究会」 予稿集

ご清聴ありがとうございました。